

行政評価シート(事後評価)

コード 9-6-2	事務事業名 障害者学級(あめんぼ青年教室)	所管部課 教育部公民館(田無公民館)
--------------	--------------------------	-----------------------

事務事業の概要	事務事業の目的	根拠法令等
	<p>第一に、障害者が自己決定や自主自立の力を身につけながら地域社会の一員として主体的に生活を送れるよう、協調性や協働性を育む。第二に、地域社会との連携を図ったり、ボランティアスタッフや市民による活動への参加・参画を充実させることで、地域社会の一員である障害者へのより一層の理解を促す。</p> <p>以上のことを目的とし、知的に障害のある成年を対象に、余暇活動や体験活動を支援する。</p>	<input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 条例・規則 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input checked="" type="checkbox"/> 要綱・要領
	事業内容・実施方法等 / 補助の概要・補助団体の概要(団体名・団体の活動内容・補助金の活用内容等)、補助金の概要(国・都基準の有無・対象者拡大の有無・上乗せ補助額・市単独補助額)等	
	活動時間は毎月4回(金曜日夜間3回と日曜1回)、2時間から3時間程度、活動内容は、学級運営の話し合い、工作・音楽・調理等の文化学習活動、課外活動、レクリエーション活動を行う。	
事業開始時期	合併前から 年度	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ()

事業費データ	項目	単位	17年度	18年度	19年度	20年度
	事業費(A)		千円	704	664	650
財源	国庫支出金・都支出金					
	地方債					
内訳	その他()					
	一般財源		704	664	650	938
所要人員(B)	人		0.10	0.10	0.10	0.10
人件費(C)=平均給与×(B)	千円		819	816	816	816
臨時職員等賃金(C')	千円		592	592	592	592
総コスト(D)=(A)+(C)+(C')	千円		2,115	2,072	2,058	2,346
単位当たりコスト						
(E)=(D) / (開催回数)	千円		44	43	44	49

評価指標の設定	活動等指標		単位	17年度	18年度	19年度	20年度
	開催回数	実績値	回	48	48	47	48
	実績値						
(指標の説明・数値変化の理由 など)							
成果指標	成果指標		単位	17年度	18年度	19年度	20年度
	一次参加者数	目標値	人				800
	実績値	人	675	770	786		
二次「学級生による企画・運営への参加」「地域社会との連携」	目標値	回数					
	実績値	回数					
(指標の説明・数値変化の理由 など)							
当該事業の第一の目的「障害者の社会性・協調性の育成」については、「学級生による企画・運営への参加」(学級生が企画や運営にどの程度参加したのか)を、また、第二の目的「障害者への理解の促進」については、「地域社会との連携」(活動を通じて、地域社会との連携がどの程度図られたのか)を指標とし、その成果を測ることとする。							

事業環境等	市民・関連団体等の意見(アンケート結果など)	学級生の多くは作業所などで勤務し、休日を自宅で過ごし、もてあましている傾向がある(家庭からの報告より)。そのため、学級生は職場以外の人たちとかわることができる当該事業を貴重な機会としてとらえている。
	都内26市のサービス水準との比較(平均値、本市の順位など)	<input type="checkbox"/> 上 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下
	代替・類似サービスの有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

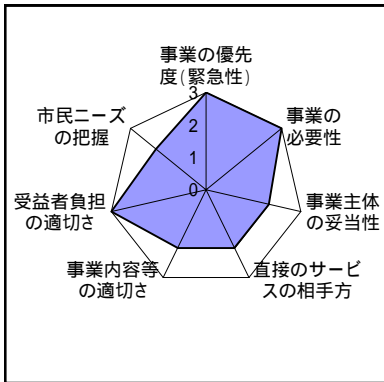
各市での取組や運営形態は事業目的や実現方法により様々である。ただし、本学級は毎週1回程度年間を通じて開級し、日常的な学習機会を提供しているため、活動の回数や総参加者数は多いものと考えられる。今後は、毎回の活動の内容を充実させることで、より高い水準のサービスを実現できると考えられる。

作業所などの職場や新興のNPOなどでも余暇活動の支援を行っているが、当該活動は職場を超えた人間関係を築くことができる点や、地域とのかかわりを重視している点で、それらのサービスとは異なっている。

コード 9-6-2	事務事業名 障害者学級(あめんぼ青年教室)	所管部課 教育部公民館(田無公民館)
--------------	--------------------------	-----------------------

【一次評価】

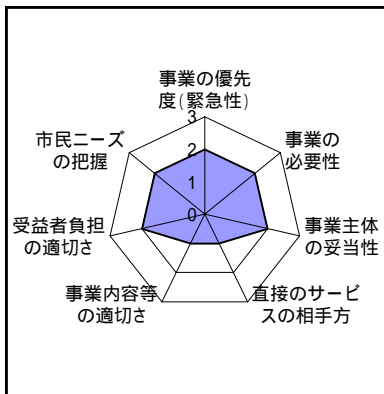
検証項目	ランク
事業の優先度(緊急性)	3
事業の必要性	3
事業主体の妥当性	2
直接のサービスの相手方	2
事業内容等の適切さ	2
受益者負担の適切さ	3
市民ニーズの把握	2



一次評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>民間の団体やNPOにより、障害者のためのサービス提供は行われているが、障害者が地域社会の中で安心して暮らしていけるよう環境を醸成するために当該事業は必要である。学級生の参加率が高いこともこの事業の必要性を示すものとする。</p> <p>今後改善すべき点として以下の2点があげられる。</p> <p>年間活動内容の話し合いを行う際、司会、記録等の役割分担をさせるなど、学級生による企画・運営を工夫しながら実施してきている。しかし、よりいっそうの自主自立支援のためには、学級生の障害の程度に応じたきめ細かい対応や支援が必要であり、スタッフの質・量とも充実が課題である。地域社会との連携への取り組みを通じて、人材の育成・確保を進めていく必要がある。</p> <p>これまでも公民館まつりへの参加、日常活動の音楽・文化活動での地域人材の活用などの取組を通じ、地域社会との連携を図ってきた。今後も日常活動の成果発表や地域住民との交流など地域での体験活動の充実を図り、障害者と市民の相互学習や交流を促進し、学級生が社会の一員として過ごせる地域づくりを進めていくことが必要である。</p>

【二次評価】

検証項目	ランク
事業の優先度(緊急性)	2
事業の必要性	2
事業主体の妥当性	2
直接のサービスの相手方	1
事業内容等の適切さ	1
受益者負担の適切さ	2
市民ニーズの把握	2



二次評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>障害者学級への参加希望者は、特別支援学校を卒業したばかりの方を含め相当数あり、参加希望者全てを受け入れることができない実情であることが担当者とのヒアリングを通じて確認された。定員に限りがあることから、一定期間障害者学級に在籍された方が発展的に終了でき、新たな希望者が参加可能となる体制づくりの検討が必要であるとする。</p>

【行革本部評価】

行革本部評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>二次評価で指摘の点を踏まえ、事業改善に努められたい。</p>